



| | | |
|-----------------|---|-----|
| I.山行 公益事業等 報告 | - | 1~9 |
| II.行事等、報告、案内・連絡 | - | 10 |
| III.今後の予定 | - | 11 |

I. 計画山行・個人山行 報告

1. 大長山北稜・口三方山トレーニング山行

日程 : 2021年2月27日(土) 口三方山トレーニング山行

2021年3月20日(土) 大長山北稜

メンバー : 田中、八十嶋

大長山は石川県と福井県の県境に位置し、登山口よりいくつかの峰を縦走しなければ着かない奥深い峰である。特に冬季は、一番近い福井県勝山市・小原峠登山口が封鎖されているため、一般登山道を通っても日帰りで行き来するにはかなりの時間がかかる中～上級者向けの山といえる。今回は白山市白峰地区を起点に、登山道が存在しない大長山北稜に突き上げ、大長山ピークを直接狙うというバリエーションルートに挑んだ。

また、それに先立って冬山技術・ロープワークの確認のためのトレーニング山行を行った。

【口三方山トレーニング山行】

おとしに仕事である番組撮影のため3～5月の白山に足しげく通っていた私は、その反動が昨年に入って全くと言ってよいほど雪山に行っていないかった。体力トレーニングこそ積んでいたが山に足が向かない状態で、正直なところ山に行くモチベーションが落ちていたと思う。大長北稜は、大先輩である田中さんに教えていただいたルートで、ありがたいお誘いをいただき心躍った。しかし同時に未経験のバリエーションルートの不安、一年間のブランクの不安も大きく、田中さんから事前のトレーニング山行のお申し出をいただいたときは渡りに船と感じた。口三方山は白山市セイモアスキー場周辺の道路からすぐに登山道にアプローチできるため、トレーニングコースとしてはうってつけだ。登山口近くでまずロープワークの確認。特に懸垂下降について復習した。懸垂下降は、ロープワーク訓練を行うたびに必ず復習する要素。難しくはないが、失敗すれば確実に死ぬだけに復習はマストだ。田中さんに「やりかたは覚えていますか?」と問われ、私は「はい、覚えています!」と元気よく答えた。

それから2分後には泣きそうになっていた。実際のところ全然覚えていなかった。いや、やり方はある程度覚えていたが手がついてこなかった。先ほど自分が発した元気のよい返答が前振りとしか思えない。「これはヤバイ・・・」

立ち木にスリングを巻いて支点を構築し、セルフビレイをとる。立ち木にロープを通して残りの束を下降目標点に向け投げる。ビレイデバイスやムンターヒッチなどでダブルロープを保持する。足をしっかり斜面に押し当て、ロープに体重をかけて水平に近い姿勢で下降する。文字にはできるがアクションにできない。

特にビレイデバイスにロープを通したり、ムンターヒッチを構築したりするやりかたが霧の向こうにあるかのようにもやもやしているのだった。優しく教えてくださる田中さんの顔をまともに見られなかった。

「帰ったらまた練習します」そう誓うのがやっとであった。アイゼンも、おとし毎週使って手足の一部のように慣れたような気持になっていたので安心して持ってきていたのだが、2年ぶりに装着してみたらずいぶん調整がずれていた。最初はあまりにうまくハマらず、左右を間違えたのではないか・・・というか、どっちが左だっけ? という有様だった。当たり前だが、山に来る前に調整すべきであった。本チャンの山で同じことをしている輩を見かけた場合、舌打ちして「素人が・・・下界に帰りやがれ」と途中で吐き捨てるかもしれない。

その輩とはだれか? ほかでもない自分であった。それでも開き直って足を進めるしかなかった。帰ったら鍛えなおそうと思った。一方で天気は最高だった。冷えて締まった雪、青い空に純白の峰。クリアな空気を通して強い日差しが降り注ぐ。気温が低いせいか時折舞う粉雪は、まさに「風花」の別名通りの美しさだった。

訓練で時間を費やしたため、山頂まで行く事はやめた。標高1000m、松尾山の稜線の向こうに白山が銀の威容を見せてくれた場所が、その日のゴールだった。

田中さんからコーヒーをいただき、休憩する。

白山は美しく、ダメダメな自分にも平等に感動をくれる。田中さんは優しい先生で、ダメダメな自分にも指導してくれる。しかしそれに甘えてはいけないと強く感じた。山は公平だ。頑張る者には成果を与えるかもしれないが、頑張らない人間はそれなりの結果しか出せない。最悪、命の危険がある。だからこそ挑む価値がある。山へのモチベーションが落ちていた自分を見つめなおす良い機会となった山行だった。帰り道、気温が上がって雪が腐ってくると、足が雪に沈むようになった。体重が軽い田中さんは全く意に介す気配がない。次第に田中さんに追いつけなくなっていく。自分だけなぜ沈むのか、余計な装備が多すぎるのか体重が重すぎるのか。両方だな・・・。

心の中の「帰ったらすることリスト」には、ロープワークの復習と装備の点検に加え、「装備と肉体の軽量化」がそっと書き加えられたのだった。



〈口三方山〉

【大長山北稜】

石川県において雪山バリエーションルートと言えるものは案外少ないのではないだろうか。なにより難しいのはアプローチである。未踏のルートは積雪期の場合、登山口となる場所までの道路はほとんど冬期封鎖されている。その点、大長山は白峰某所まで車や自転車で行けるのがありがたい。もちろん積雪期のため、林道とはいえ雪崩や落石の危険が高く、移動の際に起こる事故については一切が登山者の自己責任であることは明記しておきたい。また、一般登山道ではない稜線はそもそも人が通行できる地形ではないことも多い。雪が安定した状態であれば登ることはできるかもしれないが、雪が途切れていた

場合は通行不能になる。まかり間違っても雪崩を起こした場合なども救助は期待できない場合が多い。事故を起こせば死ぬしかなく、遺体捜索すら困難という状況もありえる。「雪の状態によっては、引き返すのも勇気」というのは共通認識と言えるだろう。

また、大長山は白山国立公園の一部である。

登山道から外れて植物を踏みつけ傷つけた場合などは、違法行為となる。登山道がない場所を登るのはあくまで、植物が雪に完全に埋もれた積雪期に限られる。

田中さんから、「今週末挑みましょう」というご連絡をいただいたときは身が引き締まった。このルートのことを田中さんからお聞きしたのは数年前。それからずっと「いつか行ってみたい」と思っていた。積雪期の大長山に行く人は多くない。ましてや、登山道がない北稜がどうなっているか見た人はほとんどいないだろう。

そして北稜は地形図を見ただけでも分かるほど「崖だらけ」の稜線だ。久しぶりの冒険になることは間違いない。準備もしてきた。トレーニング山行では醜態をさらし技術的にも精神的にも試練を得た。ロープワークだけは間違えまいと自宅の階段の手すりにロープを通し懸垂下降の手順を確認、やり方を手に覚えこませた。

反面、階段が傷つくことを恐れた妻の好感度は反比例的に低下した。アイゼン・ピッケル・かんじきは靴と完全にフィットさせ、ヘルメットやハーネスのサイズ調整も再度行った。妻には邪魔だから早く片付けろと言われた。毎週山にトレーニングに行き・・・たかったが、かわいい小学生の娘にスキーやサイクリングに誘われ断れず、休日の日中はトレーニングできなかったので、夜にこっそりウェイトを背負って卯辰山で坂道ダッシュして鍛えた。娘はかわいすぎるので仕方のない措置だった。早朝5時、真っ暗な中、白峰某所で田中さんと合流する。挨拶もそこそこすぐに出発の準備。

この日は低気圧が接近しており、午後からはもしかして天気が崩れるかもしれない。時間は無駄にできない。装備は極限まで軽量化し身軽にした。それでも、ハーネスやロープ、カラビナにスリングなどがある分ザックはずっしりと重かった。

林道某所から、大長山北稜に直登する。深い谷から尾根へと無理やり突き上げることになる。これが第一の核心部である。傾斜がゆるやかな谷筋を探し雪の状態を確認すると、あまり凍ってなくてアイゼンも効きやすそうだった。傾斜がやや緩いとはいえ斜面はほぼ垂直で、田中さんはどこから登るのかと思ったら、垂直な雪の壁にピッケルを2本突き立ててがつつ登っていくではないか。

「うわあ、いきなりヤバいことをしていらっしやるなあ」と思ったが、元気よく真似する以外選択肢はない。登りは案外登れた。下りは懸垂下降しか無いなとひそかに覚悟を決めた。夜明けと同時に斜面に日が差してくる。南向きの斜面なので当たり前なのだが、雪が凍っていないどころかズボズボに腐っている部分があるのは結構怖かった。急斜面なので、足元が崩れるとどこまで落ちるかわからない。田中さんのルートファインディングは的確で、一見雪が薄くなっていそうな場所でも歩いてみるとしっかり手ごたえがあった。一度ラッセルを交代しようと思いき先行かせてもらったが、即刻ひざ上まで埋まる羽目になった。田中さんは傾斜の角度などから雪の状態を推測しているというが、急斜面で南向きとなると自分の経験ではよくわからないところも有り勉強になった。

稜線にいったん突き上げると、一転して穏やかな傾斜となりブナ林が広がっていた。緩やかな稜線を歩いている間はずっと、左手に白山と別当谷が一望できる。

標高1100m付近、すこし開けている場所から望むと白山の稜線はことに素晴らしく、別山・三の峰から主峰御前峰・大汝峰、四塚山に至るまで南北に長い白山連峰のほとんどが目の前に広がっている。

長年にわたり白山の映像を撮影する仕事に就かせていただいているが、南北に広がる白山を真横から望み、翼を広げる白い鳥のような巨大な威容をこれほど間近に目にすることができる場所は他にないと思う。あるとすれば鳴谷山だが、角度が違うため左右に広がる感じはこちらの方が上である。難があるとすれば午前中は逆光になることだ。晴れた日の午後撮影すれば最強の一枚が撮れるであろう。標高1400m付近、樹林帯を抜け目の前に大長山の山頂が見えてきた。と同時に、山頂に至る北稜が切り立ってそびえているのも目に入って来た。稜線の下急斜面は大規模なクラックが入っていて、そのうち全層雪崩になるのが容易に予想できる。滑落した場合はクラックに落ちるか、谷底に落ちるか…。歩行の失敗は許されないだろう。気温がさらに上がれば雪が崩れる危険もある。風が強くなって来た。時折、体が揺られるほどの強風となる。南風のため今はまだ大長山が遮ってくれているが、低気圧が近づけば風向きは変わるだろう。焦らず急ぐ。いよいよ切り立った稜線に挑む。ここが全体の核心部だ。遠くから見ると、尾根の左は雪庇になっていた。尾根の右は急斜面。ピッケル2本を突き立てアイゼンを効かせて右斜面をトラバース気味に進む。雪が灰色になっている場所は大体カチカチに凍っている。アイゼンの先が少し刺さる程度の雪。

たまに若いブナの木が生えていて、その周りは少しだけ安全そうだった。帰りに懸垂下降するなら、支点はこうした立木だろう。私が先に行き、田中さんが後ろで見てくれている。トラバースしながら下を見ると、何百メートル下の谷川が見える。さすがに写真は撮れないなと思っていると、田中さんが下を見ないように言葉をかけられた。あまり下を意識しすぎると先に進めなくなるのだろう。

核心部の稜線を抜けると、大長山の山頂はすぐそこだった。山頂は意外なほど緩やかで、真っ白で、優しい顔をしていた。山頂には人がいた。取立山から縦走で来たのだろう。おかしなところから我々が登ってきたので、奇妙に思う人もいたかもしれない。

田中さんのお話では、前に来たときは山頂付近が垂直な氷壁になっていて、登攀になったそうだ。今年は雪が多く、壁は雪に埋まって登りやすくなってしまったようだった。安心すると同時に、「氷壁に登れる年にまた来たいな」と思った。田中さんは登頂した喜びを静かにたたえた表情をしておられたが、同時に淡々としていた。

先生から見たら今回の登頂にはそれほど手ごたえはなかったのかもしれない。それとも、帰るまで気を抜かない研ぎ澄まされた精神ゆえかもしれない。ともかく自然体だった。本当に見習うべき姿勢だ。

山頂は風が強く、昼食とコーヒーを楽しんだらすぐに下山となった。帰りは早かったが、稜線の核心部は本当に恐ろしく、ピッケル2本・アイゼンを突き立てながら後ろ向きに降りていくしかなかった。これでも雪の状態がよく歩きやすいほうだという。雪が切れていたり、凍っていたりしたら確実に懸垂下降だ。林道に降りる急斜面も、上から見たら「どう考えても降りられないよね」という感じだったが、木を手掛かりにするなどして何とか降った。危ないところでは、必ず田中さんが前を行ってくれた。私はその動きを真似するだけで良かった。ロープは結局使わずに済んだ。

無事に下山した後、田中さんは「その調子ならどこでも登れるよ」と私に温かく声をかけてくれた。自信を持つという意味で言ってくださったのかもしれないし、もっと頑張るって難しい山にも挑戦するべきだという激励の意味もあったと思う。その言葉をいただいた時、一つの冒険をやり終えたのだという実感がわいた。同時に、また次の山へというモチベーションも沸いた。仕事で山に撮影に行き始めてから薄らいでいた、山行そのものを楽しむ心が、まだ確実に自分の中にあると感ずることができた。意義深い山行となった。



ご多忙中にも関わらず、いろいろとお心を向けてくださった田中さんに、改めて感謝したいと思います。本当にありがとうございました

[文・写真：八十嶋]

2. ココヘリ オペレーター トレーニングと労山救助搜索訓練

日時 : 2021年5月14日(金) 金沢市別所町 アドバンスドエアー ヘリポート、医王山・獅子吼 上空

メンバー : 樽矢 堀 2名

日時 : 2021年5月30日(日) 労山救助搜索訓練 ココヘリデモンストレーション、医王山

メンバー : 樽矢 八十嶋 2名

ココヘリサービスが始まってから早い段階で会員となっていたが、今回はオペレーターとして実際にヘリコプターに搭乗し探す方のトレーニングを行った。

ココヘリと提携している金沢市別所町のアドバンスドエアーのヘリポートに集合、その場で初めて受信機を渡されて1時間ほどのレクチャーを受けて即実地訓練となった。今回は医王山と獅子吼の2箇所に発信機があるとのこと、地域だけを教えられ離陸、まずは医王山へ、上空から探すがいざは受信できなかった。アンテナを振りながらゆっくり前進、高度も上がったところで発信機からの電波を捉えた、アンテナは夕霧峠・蛇尾山を向いていた。信号を辿り距離2kmとなったところで近距離モードに切り替え、距離表示が少なくなり約200m程度になったときに夕霧峠・蛇尾山を越えイオックスアローザ上空に、ここで探知方向が反転し距離も増えていった。これにより今通過した夕霧峠・蛇尾山付近と推測出来る、その後は推測地点上空を数回飛行し、受信機とGPSの両方の画面をスマートホンの動画で撮影しココヘリに送信、ココヘリ側で動画を解析し座標を割り出す、オペレーターは動画を撮影するまでが重要な任務である。

2箇所目、夕霧峠から獅子吼方面に向かうが受信は不安定であった、内川ダム上空で近距離モードに切替て搜索を行ったが、あいにく獅子吼周辺はハンググライダーが多く飛行しており近寄れず高度も落とせない、という状況で離れた場所から推測し動画を撮影した。

実は今回は「ポケム」という登山用の発信機のメーカーである細谷火工さんも参加されており地上からヘリが見えたら発信機で合図するとの段取りであったが自分は発信機を認識できなかったこともあり一番近づいたときの受信機表示で約800mであった。

樽矢支部長は発信機を目視でき、ぴったりの位置を飛ぶことが出来たそうである。医王山では200mで有ったことを考えると800mはかなり離れていると言える。有視界飛行のヘリコプターは対地高度150m以下禁止と航空法により定められているので200mはかなり接近できたと言える、ヘリは150mプラスα、山岳地なので安全高度を考えて飛行してもらえたと思います。

自分がこれまでに乗ったヘリコプターで一番小型でしたが大きな揺れも無く安全に搭乗・訓練させてもらえました、パイロットをはじめ関係者に感謝します。





[文・写真：堀]

【労山救助捜索訓練】

本日はココヘリを中心として、労山さんの救助捜索訓練に会は違いますが、ココヘリオペレーターとして、ココヘリの説明なども含めて参加させて頂きました。発信機から出る電波を受信機でサーチしながら、発信機(要救助者)を探す訓練です。

地上からの捜索は山かげや地形で難易度は上がります

が、前もって草むらに隠した発信機を受信機の画面だけで見事に探し当てました。 おおよその場所さえヘリで特定出来れば、地上から近づいて探し当てる事が検証出来たと思います。 地形により電波が途切れる事も地図と照らし合わせばなるほどと理解出来ます、訓練は半日でしたので、何十年ぶりに医王山大池平まで散歩が出来ました。

[文：樽矢]

3. 登山道整備

日時 : 2021年6月5日(土) 火燈古道・不惑新道 登山道整備 小倉谷山からの最低鞍部
 メンバー : 大庭 中川 田中 樽矢 織田 大幡 黒崎 池本 田井 堀 労山1名 総11名
 日時 : 2021年6月26日(土) 杉峠 登山道整備 第一展望台から第二展望台(白山展望台)
 メンバー : 大庭 田井 中川 藤井あ 織田 樽矢 総6名

【火燈古道・不惑新道】 [文・写真：樽矢・堀]

梅雨前の登山道整備に富士写ヶ岳から小倉谷山、火燈山周回道の不惑新道の草刈りに入りました。今回は小倉谷山から富士写ヶ岳への登山道の小倉谷山から最低鞍部まで、昨年10月の出来なかった部分です。

大内の火燈古道登山口に0730集合、作業開始が1030、仮払機2台なので作業は思ったより進んで、昼過ぎには予定通り完了、担ぎ上げたソーメンを皆さんで食べて下山。参加された皆さんご苦労様でした。



【杉峠 登山道整備】 [文・写真：樽矢]

公益事業 登山道整備で白山杉峠道の草刈。

今年は第一展望台から第二展望台(白山展望台)までの区間を集中的に整備。登山道の両側もスッキリ刈ると楽に歩けるようになります。予報では午後から雨になると言うことで早々に下山。昼食は戻って第一展望台でソーメン。参加の皆さんご苦労様でした。



3. 火打山 テント泊

日時 : 2021年7月2・3日(金・土) ルート : 笹ヶ峰登山口より メンバー : 藤井あ 中川

せっかくの連休。

天気も微妙でしたが大好きな火打山へテント泊へ。

前日はかなりの雨だったようですが。

ガスが立ち込めてましたが、雨も樹林帯のお陰でカッパを着るほどでもなく、高谷池ヒュッテに到着。

雨の場合は素泊まりに変更可能か事前に確認済み。

とりあえず大丈夫そうなので、テント受付を済ませ、テント設営。初めての雪上のテント設営な為、中川氏の指示に従いスコップを使用し平に整地し設営完了。

まだ時間もあるので、天狗の庭まで散策へ。

今までガスで見えなかった火打山と妙高山が姿を現し、これなら逆火打見れるかと先に進む。天狗の庭まではまだまだ残雪がある。しばらくしたらここも花盛りになるなと思いをはせる。青空は少なめだったが、風もなく逆火打見ることができた。今年はコバイケイソウが当たり年。キヌガサソウ、ハクサンコザクラいっぱい咲いていた。テン場は、私達のための貸し切り。

静かな夕暮れを堪能。夕食を済ませ、横になるが20時頃から雨が降り始めたのでそのまま就寝。

2日目、快晴。無風の為、完璧な逆火打も見ることができた。次第に雲が湧いてきたので、山並みはすぐに消えてしまったが、山頂から下山途中に、雷鳥が姿を見せてくれた。何度もこの山に訪れているが、初めて火打の雷鳥だった。さすがに土曜日、テント場に着くとすでに何組もテント設営しており、早々に撤収しヒュッテ前にて昼食を食べ下山開始。

この時期の火打は初めてだったが、まだ人も少なくと静かな火打山を堪能することができた。

下山後、黒姫山のバッジを購入し池の平の温泉で汗をながし帰宅。



[文・写真：藤井あ]

4. 磐梯山と安達太良山

日時 : 2021年7月12・13日(月・火)

ルート : 笹ヶ峰登山口より

メンバー : 藤井あ 中川

初の東北遠征。

車中泊にて磐梯山と安達太良山に行ってきた。北陸で見れない花を見たいと中川氏に相談し磐梯山と安達太良山に決定。ただ、やはり天気が微妙です。

11日、移動日と決めて金沢をお昼に出発し、上越からは下道をのんびり走り、道の駅はんだにて車中泊。

12日、磐梯山八方台登山口に移動。雨が強まり、しばらく待ってからスタート。しばらくすると湯治場跡が。ここで、カメラを落としレンズを破損。

雨でなければ爆裂火口コースを歩きたかったが、

ふったり止んだりの天気なので仕方ない。

ただ、山頂直下からは本降りでした。

山頂にて、目的のバンダイクワガタがまだ咲いていました。良かったです。暫くすると、雨も止みガスも晴れ、眼下には猪苗代湖が。圧巻でした。

弘法清水小屋にて、名物のなめこ汁を頂きました。油麩入りで美味でした。

下山後、道の駅つちゆに移動し車中泊。



13日、安達太良山登山口のスキー場に移動。

スキー場のルートが若干解りづらい。

二人で彷徨い。なんとかルート確認し登山道へ。

薬師岳到着と同時にガスが。そして雨も。結局、山頂直下まで雨でした。山頂はガスで景色はみれず。

分岐よりくろがね小屋に向かいます。天気も回復し青空も。くろがね小屋は建て替えだそうです。

バッジを購入し下山します。長い長い林道に飽きてきましたが、無事に駐車場に到着し温泉で汗を流し、金沢に向けて出発です。

天気は雨で微妙でしたが、見たい花も見ることができました。そして火山の荒々しい山。標高はあまりないが魅力的な山でした。次は紅葉をみてみたいですね。

[文・写真：藤井あ]

5. 白馬岳 (不帰ノ嶮予定変更)

日時 : 2021年7月25・27日(日・月・火)

ルート : 柵池高原スキー場から猿倉

メンバー : 藤井あ 中川

柵池高原スキー場から不帰ノ嶮の予定だったが、台風接近で3日目が雨予報のため、天狗山荘テン泊をキャンセルし頂上宿舎素泊まりに予定変更。

25日、八方第5駐車場に車を止め、バスターミナルより柵池高原スキー場へ0635発のバスにて移動し、登山口へ。早朝運行のお陰で、早めに登山口に到着できた。

白馬大池は人気で、1張キャンセルが出たのですぐにテント場予約。日曜日なのでツアー下山者の集団にはまりなかなかなか進めず、なんとか乗鞍岳へ。ここでも雷鳥がお出迎え。人も多いので大池に向かう。

まだテント場も余裕があり、ソロの女性の間に設営、次々にやってくるテン泊者でテン場はいっぱいになった。

設置後、大池山荘受付でみた、カップ麺が無性に食べたくなり、小麦粉絶ちの禁を破り食す。美味い!! 美味すぎる!! 腹も満たされたのでお待ちかねの散策。大池の雷鳥親子にも皆さん癒され、チングルマ、ハクサンコザクラも咲き乱れ、素晴らしい景色。時折、ガスが立ち込めたが、雨は降らず。夕食は、久しぶりのお好み焼き。こちらも小麦粉の禁を破る。

26日、稜線歩きと高山植物を堪能。白馬岳の登りに力尽きそうだ。息が上がる。地味に白馬岳は標高高いのかと中川氏に確認する。苦しくて当たり前だと。

早めに宿舎に到着したが受付時間がまだなので、杓子と鑓ヶ岳へ、鑓ヶ岳手前で時間切れ、白馬三山もお預けである。小屋に着くと、登山指導の方に、雨が強まる可能性があるので注意して下山とのこと、明日の様子を見ながらの下山を決め就寝。部屋は貸切、小屋は快適。

27日、朝から雨と風。一番の心配は途中の沢、濁流になる前に渡りきりたい。そこまで雨も強くないので下山開始。ヘルメット装着。すでに大雪渓上部は通行不可となっており、秋道へ。大雪渓入口で軽アイゼンを装着。後ろをみると先ほど追い抜いた夫婦が侵入禁止の場所へ入っており、二人で注意しましたが、大丈夫だったかな… かなり危ない状況でした。大雪渓の落石に注意して降りる。白馬尻からの林道歩きが長く苦行だった。猿倉に到着、バスもすぐに乗れたのでスムーズに駐車場へ。不帰ノ嶮は天候不良で断念、高山植物、雷鳥、素晴らしい景色もみれたのでよしとする。

[文・写真：藤井あ]

6. 燕岳～大天井岳

日時 : 2021年8月30・31日(月・火)
ルート : 中房温泉より
メンバー : 藤井あ 中川

表銀座の予定が、最終日の天気予報が雨の事で燕岳と大天井岳のみに変更。最終日は常念から下山も考えたが雨予報の為1日早く下山にする。

29日に金沢出発し、中房温泉第1駐車場にて車中泊。

30日、4時半、一応大天井岳に向かう予定で早めにスタート。まだ、暗くヘッドランプを装着。

合戦小屋到着し、久しぶりのスイカを頂く。

平日だがかなりの人で賑わっている。

久しぶりの山行でバテバテになりながら燕山荘に到着。こちらはかなり強風。

荷物をデポし燕岳に向かうが、体が持っていられない風が吹いており、気温も低くかなり寒く低体温の恐れが。寒さで耳の持病が悪化。激痛が走る。今回は強風、雨のため予定を変更し、燕山荘にてテント泊。

テント場は風はなく快適。(テント場は予約制)

明日はとりあえず大下りの頭までかなと中川氏。

私は大天井岳に行く気満々でしたが。

芋焼酎を少し飲み就寝。

31日、稜線は風が強いが大天井岳方面に向かう。

遠くは劔岳まで見え、まずまずの天気。槍、穂高等を眺めながら進む。大下りの頭で、バジツ買いたかったので大天井岳行きましょと中川氏に。

時間も余裕があったのでOKをもらい進む。

高山植物も最後かな。そして秋の気配が。

大天井岳直下でポツポツと。大天井岳山頂にて、行くはずだった喜作新道を眺め、次こそは絶対に表銀座歩きたいと。穂高、常念方向は雨雲に覆われてきたので、燕岳に戻ります。時折、ポツポツと。曇り空のお陰か、雷鳥家族に会えました。昼飯を山荘にて頂き下山開始。

先ほどどうって変わって暑い。結局帰りもスイカを頂く。中房温泉の建物が見えてからが長い。

なかなかつかない。1700に到着。

今回もまた予定変更。槍ヶ岳には行けなかったのも、またリベンジしたい。

[文：藤井あ]

6. 常念岳から蝶ヶ岳周回

日時 : 2021年14・15日(火・水)
ルート : 三股登山口より
メンバー : 藤井あ 中川

のんびり2泊3日のテント泊周回予定でだったが、三股より前常念、常念小屋にてテント泊に予定変更。

勤務終了後、金沢0230出発し高山経由にて三股登山口第1駐車場へ。平日なので駐車場にも余裕あり。

0630に到着、0700に出発。

三股登山口には体力に自信がない場合はルート変更をとの案内板に不安を覚えたが、頑張るって樹林帯のつづら折りを登って行く。息が上がらない様にゆっくりと。樹林帯を抜けると梯子が。これを登るといよいよ大岩登りのスタート。テント泊装備での岩登りは堪える。

途中、雷鳥が現れて少しだけ疲れを忘れた。

長い長い登り。なんとか前常念に到着したが、目の前に見える常念岳に圧倒され、まだ登りのかとテンションが下がる。途中ですれ違った登山者の方にトラバースルート通れると聞いて、常念小屋に向かうが、崩落跡ありロープありとなかなか難ルート。歩けど歩けどなかなか着かないので中川氏に先に行って受付をお願いし、ゆっくり歩く。

17時前になんとか到着できたが、片頭痛と疲労で体調がおもわしくなく、テント設営して横になる。中川氏、ご迷惑おかけしてすみませんでした。少し横になって、食欲も戻りフリーズドライのカレーとソーセージを食べて明日に備える。

15日、0500に出発。ご来光は雲があり残念ながら槍ヶ岳に朝日当たらず、モルゲンロートは拝めず。

常念までもなかなかの登りで、帰りたいと何度も弱音が…分岐まで登れば後少し。なんとか登りきり山頂へ。

常念からは360度絶景見ることができた。

朝食休憩をして、蝶ヶ岳に向かう。

ここからの下りもかなり神経を使う。

何度も訪れる登り返し。地味に登り返す蝶槍。

やっとやっとで蝶ヶ岳ヒュッテに到着。中川氏には、『もう1泊していきたいと』ここでまた困らせる弱音を。

蝶ヶ岳登頂し、ヒュッテにてバッジを購入。

はて、横におはぎがあるではないですか。

生き返る。しみる。

時間も迫っていたので早々に下山開始。相変わらず親指が痛い。痛みに耐えて1740に駐車場に到着。

三股からの常念はかなりハードで、駐車場に着いたときの達成感は凄かった。弱音を吐いてしまい情けなく日々トレーニング頑張らねばと心に誓い、温泉で汗を流し、食堂で腹を満たし、金沢へ。

2日間弱音を吐く私を励ましてくれた中川氏。ありがとうございました。

[文：藤井あ]

7. 白山

日時 : 2021年19・20日(日・月)

ルート : 別当出合より観光新道登り、エコー～砂防新道下山

メンバー : 樽矢 他3名 + 堀 単独で合流

自粛疲れでそろそろ山に行きたいと思っていたところ樽矢支部長より白山のお誘いが。

支部長パーティ4名で室堂を予約してあるとのこと、自分も確認したがまん延防止の為、室堂は新規の予約を受け付けていない。仕方ない、大汝お助け小屋の点検保守を兼ねて一人寂しく泊まるかとの思いで準備する。

別パーティーなので前夜から市ノ瀬入りで車中泊とし23時前に駐車場着、着いてビックリ、3連休でもあるので既に第3駐車場まで満車、なんとか第3駐車場の最後の数台に停めることが出来た。19日早朝から車の音で目が覚める、外を見ると第5駐車場も満車になり車が途絶えた、係のおじさんに聞くと市ノ瀬手前で満車表示を出しているのが路駐が下まで伸びているとのこと、支部長はまだ到着しない。しばらくすると数台づつ車が上がってきて支部長車を発見。どうやら路駐も限界になり市ノ瀬の各駐車場の奥を開放したらしい、しかしそこは草付きの泥濘んだ斜面、スリップと汚れを気にしながらの駐車となった。運行会社が代わった登山バスはマイクロバスとなり乗車定員は少なくなったが頻繁に来るので以前よりは列が長くならずストレスも無い。

朝は5時からの運行予定であったが早朝4時半頃から運行しており早朝でも列は短かった。

別当出合を4+1名で鳥居をくぐり出発。

今日は初心者が2名とのことだが観光新道から登る。

ゆっくりペースで別当坂分岐へ、仙人窟で釈迦岳を眺めながら小休止、殿ヶ池避難小屋で大休止し、馬のタテガミからは風が通り涼しい。黒ボコでは休まずに御前峰が見える木道に出てから大休止、快晴で天候も良く長居してしまっただが予定通り14時に室堂着。

4名は室堂チェックイン、自分は予約が取れなかったので支部長知人に話を通して頂き、自炊素泊まりの白山荘に1名空きがあり泊まれることに。

20日は04:30から御前峰に登るが05:30の日の出時刻になってもガスガスを御来光は見えず、この様な時はガスが薄くなってくるとブロッケンが見られるのだが。。

諦めて御池めぐりへ、内緒ですが翠ヶ池からの御来光も素晴らしいです、ちょうど東側が開けていて御来光が湖面に反射し神秘的な光景でお勧めです。

室堂に戻り4名様は朝食へ、自分は担いできたα米ごはんを室堂前のベンチで細々と。。

朝食後はコーヒーを頂きまったりと、動きたくないが下界に帰らないと、下山も初心者2名同行なのでゆっくりと、エコーから下りましたがビックリするぐらい綺麗に整備されている、南竜からのトラバース道も整備中であつた。甚之助でカップラーメンやらベーコンやら出てきてお腹いっぱい下山しました。

[文：堀]

II. 行事等 報告、その他 案内・連絡

1. 会務報告

感染拡大を防止の為、施設利用の自粛が要請されていますが、三水会は少人数にて開催しています。

- ・三水会 2021年5月19日(水) 19時～21時
参加 樽矢 堀 大幡 埴崎 藤井 5名
議題 火燈古道・不惑新道、杉峠 登山道整備の実施について
- ・三水会 2021年6月16日(水) 19時～21時
参加 樽矢 堀 埴崎 藤井 4名
議題 火燈古道・不惑新道の整備報告
- ・三水会 2021年7月21日(水) 19時～21時
参加 樽矢 堀 大幡 埴崎 田井 織田 6名
議題 杉峠 登山道整備の整備報告
- ・三水会 2021年8月18日(水) 19時～20時 【まん延防止等重点措置の適用による施設利用時間短縮】
参加 樽矢 堀 大幡 太田 織田 八十嶋 6名
議題 120周年山岳古道調査の進捗報告
- ・三水会 2021年9月15日(水) 19時～20時 【まん延防止等重点措置の適用による施設利用時間短縮】
参加 津田 堀 大幡 村上 埴崎 樽矢 6名
議題 120周年山岳古道調査の進捗報告その2 9月1日の古道調査 zoom 会議報告
10月31日開催予定の久弥祭報告

2. 令和3年度総会「令和2年度報告、令和3年度計画」

- ・4月3日(土) 14:00～15:00 場所 : 金沢市総合体育館 第1会議室
三密回避の為、定員100名の第1会議室を会場とし、3人テーブルに1人着席とし、マスク着用、アルコール消毒・手洗いを実施し、少人数にて総会を開催しました。
出席 樽矢支部長、大幡副支部長、津田(顧問)、中川(顧問)、岡本(会計監査)、村上(会計監査)、下坂、太田、藤井あ(会計)、堀(事務局)
出席10(議決権9名)名、委任状提出23名 計32名の議決権1/2以上となり本定期総会は成立しました。

3. 第25回久弥祭開催について

既に郵送にて案内が届いているかと思いますが、延期になっていました、第25回久弥祭 深田久弥没50年は来る、10月31日(日) 午前8時30分から九谷ダム広場(加賀市山中温泉枯淵町 富士写ヶ岳登山口)にて開催されます。お時間のある方、久弥祭の後、富士写ヶ岳登山は如何でしょうか。

4. 古道調査について

石川支部は第一次調査道に「白山をめぐる禅定道」として加賀禅定道、越前禅定道、美濃禅定道の三禅定道がありますが、「加賀禅定道」を担当することになります。

実際に踏査しGPSのログと登山道及び歴史遺構の写真撮影や文献の調査が必要になります。

10月以降に第二次調査道が本部より提示されますので調査に関わり各位のご協力をお願いします。

Ⅲ. 今後の予定

1. 行事予定

支部の行事予定に係わらず、山行について三水会などでリクエスト・提案をお願いします。

2021年度（令和3年度）石川支部事業計画案 2021年(令和3年度)4月度～2022年3月度

| 実施予定日 (行程及び予備日) | 事業 区分 | 内容・目的 | 山域・場所 | 担当 |
|--------------------------|--------------|---|-----------------------------------|---------------------|
| 4月3日(土) | 共益 | 令和3年度定期総会 | 金沢市総合体育館 | 事務局 |
| 4月11日(土)、 (予備日)12日(日) | 共益 | オンソリ山【月例山行】 カタクリ自然観察会 | 白山瀬波キャンプ場 | 自然保護委員 植崎、事務局 |
| | 本部・ 他支部事業 | 小島鳥水祭 | 香川県高松市 | 本部・四国支部 |
| 4月25日(日) | 公益 | 久弥祭・富士写ヶ岳登山【月例山行】→10月31日延期 | 枯淵駐車場特設会場 | 山行委員・事務局 |
| 5月29日(土) (予)31日(日) | 公益 | 火燈古道・不惑新道整備【月例山行】 | 登山口～火燈山～ 富士写ヶ岳 | 登山道整備委員 大幡 |
| 6月5日(土) | 本部・ 他支部事業 | ウェストン祭 | 上高地・ウェストン碑前 | 本部・信濃支部 |
| 6月26日(土) (予)27日(日) | 公益 | 杉峠道登山道整備【月例山行】 | 三ツ谷～杉峠 | 登山道整備委員 織田 |
| 7月10日(土) | 共益 | '71 テイリッチミール登頂50周年記念 | 未定 | 未定 |
| 7月17日(土) | 公益 | 白山親子登山座学研修【月例山行】 | キゴ山、ふれあいの里 | 山行委員・事務局 |
| 7月31日(土)～ 8月1日(日) | 公益 | 白山親子登山教室【月例山行】 | 白山 砂防新道・室堂・エコー | 山行委員 事務局 |
| 9月25日(土)～ 26日(日) | 本部 | 支部合同会議(支部長・事務局長) | 主婦会館プラザエフ リモート参加 | 支部長・事務局 |
| 10月31日 | 共益 | 久弥祭・富士写ヶ岳登山 | 枯淵駐車場特設会場 | 山行委員・事務局 |
| 11月13日 11月14日 | 他支部 | 福井支部 創立30周年記念行事 | ホテルフジタ福井 野見ヶ岳・武周ヶ池 | 福井支部福井支部 支部長出席予定 |
| 日程は未定 | 共益 | 五支部合同懇親山行(石川支部主催) 【月例山行】、【山祭り】共催 | 宿泊場所未定 オンソリ山 | 山行委員 事務局 |
| 12月4日(土) | 本部 | 支部長会議・年次晩餐会(中止決定) | 本部(12月第一土曜日) | 本部・事務局 |
| 12月 | 共益 | 【月例山行】 山域未定 | 雪山技術研修会と兼ねる | 山行委員・事務局 |
| 2021年1月 | 共益 | 【月例山行】 山域未定 | 雪山技術研修会と兼ねる | 山行委員・事務局 |
| 2月 | 共益 | 【月例山行】 山域未定 | 雪山技術研修会と兼ねる | 山行委員・事務局 |
| 3月 | 共益 | 白山開山 泰澄大師ゆかりの越前五山 越知山(613m)、文殊山(365m)、吉野ヶ岳(蔵王山)(547m)、 日野山(795m)、白山(2702m)【月例山行】 | 白山(2702m)を除き、 4山を散策 一日2座も可能 | 山行委員 事務局 |
| 2月 | 共益 | 5支部スキー山行(福井支部主催) | 未定 | 福井支部 |
| 月次第三水曜 | 共益 | 【月例集会】三水会 4月21日、5月19日、6月16日、7月21日、8月18日、 9月15日、10月20日、11月17日、12月15日、2022 年1月19日、2月16日、3月16日を予定 | 金沢総合体育館 | 事務局 |
| | 共益 | 支部報発行(年2回) | 9月・3月 | 事務局 堀 兼務 |
| | 共益 | 役員会議 | 必要の都度 | 事務局 |

編集後記

まん延防止等重点措置が9月30日に解除される予定ですが(執筆時)、石川県では職場等でもクラスターが発生するなどまだまだ注意が必要です。

先日、北アルプス槍・穂高では地震が発生し登山中に怪我をされた方もいます。奇しくも7年前、2014年9月27日11時52分には御嶽山が噴火し死亡者:58人、行方不明者:5人と日本の登山・火山史上大きな事故となりました。紅葉の綺麗な場所で昼食を摂りつつろいでいる時間でもあり、誰も噴火するとは思わなかったでしょう。

最近、白山でも地震が頻発しています、気象庁の火山登山者向けの情報提供ページでは、噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)となっています。出かける際には様々な情報を確認し安全に登山をお楽しみください。

日本山岳会 石川支部報

発行日 2021年(令和3年)9月30日

発行者 公益社団法人 日本山岳会

支部長 樽矢 導章

TEL/FAX: 076-237-5769

編集者 支部報担当 堀 正春

(事務局) TEL/FAX: 076-248-0175

E-mail isk@jac.or.jp

HP <https://jac-isk.com/index.html>